

社団法人 **宮城県看護協会** ●仙台市青葉区

地域の歴史と景観を継承し、環境に配慮した新会館

【贈呈理由】安全・安心・快適な空間づくりと負荷移行によるコスト削減に蓄熱式空調が活躍

活かす



宮城県看護協会会館

社団法人宮城県看護協会は、1947年に日本助産婦看護婦保健婦協会宮城県支部として設立され、以来県内の保健師、助産師、看護師および准看護師の職業倫理の向上、看護に関する専門的教育、ならびに学術の研究を行い、県民の健康と福祉の向上に寄与することに貢献している。2012年1月現在、会員数は1万名以上、うち看護師は9千名を超えている。看護従事者に対する教育研修に加え、看護師などの無料職業紹介や県内十数カ所の訪問看護ステーションを拠点に、訪問看護事業や居宅介護支援事業などを行っている。

地域に親しまれる新会館

10年9月に県民のニーズにさらに応える看護活動の拠点として、地域の景観となっている既存の二本の松を活かし、地域の歴史・景観を継承した新しい風景を創出するオール電化の新会館と研修センターが建設された。これまで以上に、地

域に親しまれる看護協会を目指している。

200名収容可能な大ホールをはじめ100名収容の中ホールや各種研修・会議室と図書室のほかに、研修の合間にリフレッシュできる交流スペースを備え、やわらかな日差しを採り入れた開放感のある建物で、利用者が安全・安心・快適に勉学に励むことができる施設となっている。

きめ細かい空調制御とピークシフトを実現

建設にあたっては県民の健康を支える施設として「環境に配慮する」ことを重視、



蓄熱槽



エコ・アイス

省エネルギーの観点からエコ・アイスの導入を決定した。エコ・アイスによる負荷移行は、研修の有無など設備の稼働にあわせてきめ細かな制御を可能にするとともに、ピーク時の空調使用電力を夜間にシフトすることでランニングコストの低減を実現している。

●一次エネルギー消費量削減効果

今回採用 **エコ・アイス(個別分散)**

【従来方式】FF暖房機 [延床面積 800㎡]



【諸元】エネルギー使用実績比較
一次エネルギー原単位
電気(全日):9.76MJ/kWh(※) / 電気(昼間):9.97MJ/kWh(※)
電気(夜間):9.28MJ/kWh(※) / 灯油:36.7MJ/ℓ(※)
【※】エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則(10年改正)。システム更新前後の延床面積が異なるため床面積あたりの一次エネルギー消費量で比較

宮城県看護協会会館

所在地:宮城県仙台市青葉区八幡2丁目10-19
建築設計:㈱関・空間設計
建築施工:㈱橋本店
蓄熱設備設計:㈱E.I.S設備計画
蓄熱設備施工:㈱オオヒラ設備
延床面積:1,809㎡
竣工:2010年(新設)

●蓄熱設備概要

エコ・アイス(個別分散) 13馬力相当×1台・16馬力相当×1台・28馬力相当×1台(ダイキン工業)